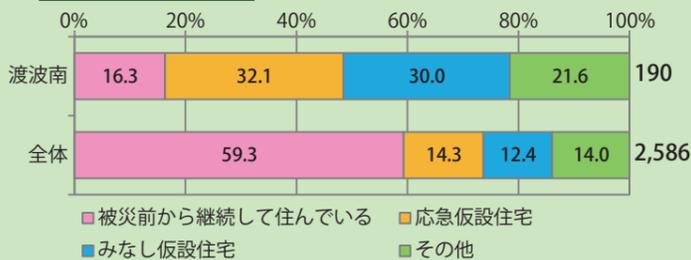


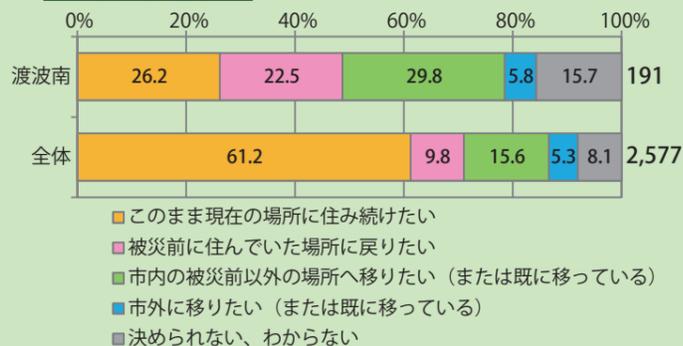
アンケート結果

平成25年12月から平成26年1月にかけて、被災時に東部地区にお住まいの約6,000世帯の方に、アンケートを実施しました。主な設問と結果は、次のとおりです。

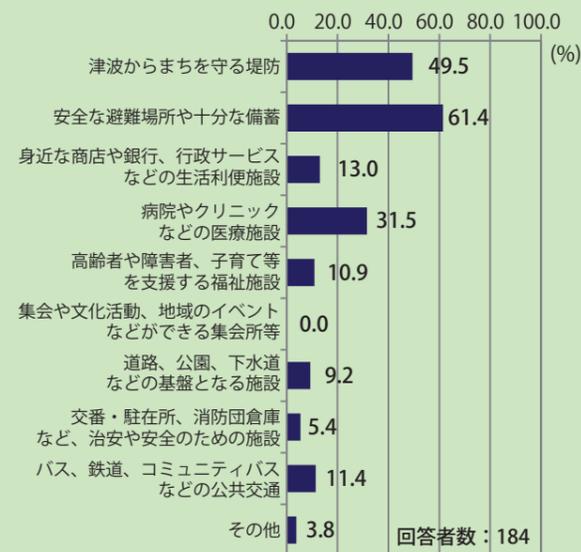
●現在のお住まい



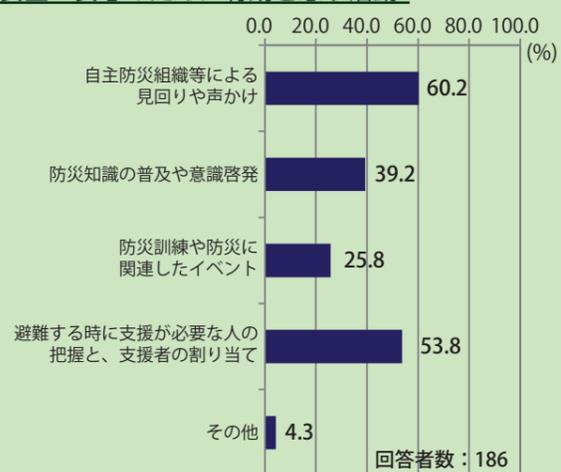
●今後のお住まい



●住み続けるために重要と考えられる施設



●安全・安心のために有効と思う活動



今後の進め方

皆様からいただいた意見について、市では新たな財政措置が必要な課題や、より積極的に解決に取り組むべき案件などを整理・調整し、市としての方針や方向性のとりまとめを行いました。

それを、湊地区の町内会長連合会、渡波地区の行政区長会にてお示した後、市が策定する震災復興基本計画実施計画へ反映させるなど、具体化させていきたいと考えています。

お問い合わせ先

石巻市 復興政策部 地域協働課
 TEL：0225-95-1111 (代表)
 FAX：0225-22-4995
 E-mail：iscviact@city.ishinomaki.lg.jp

皆さまのご意見をお待ちしています



東部地区復興まちづくり だより Vol.1

渡波南地区

松原町 長浜町 大宮町 幸町

石巻市では現在、“どうすれば安心して暮らし続けることができるのか” “どうすれば仮設住宅等にお住まいの方々が戻ってこられるのか” をテーマとした東部地区*の復興まちづくりに、住民の皆さんとともに取り組んでいます。

その一環として、昨年11月末から地区別に2度の意見交換会を開催しましたので、その結果をお知らせします。

*東部地区とは・・・
 旧北上川より東側の市街地のうち、津波による被害が大きく、かつ土地区画整理事業等の事業を行わない地区を指します。



平成26年8月
 石巻市 復興政策部 地域協働課

第1回意見交換会を開催しました【平成25年11月28日(水)会場：渡波公民館 住民出席者：29人】

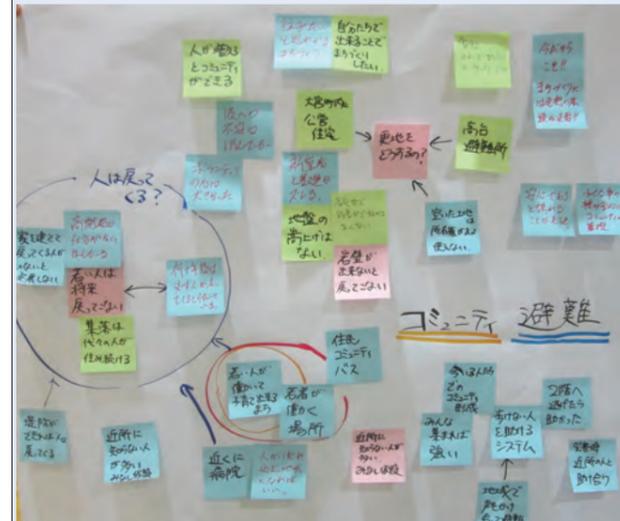
平成25年11月28日 渡波公民館大ホールにて、渡波南地区・渡波中地区の合同意見交換会をとり行いました。

主な意見：

- ・防災無線が聞き取りづらい。
- ・避難タワーはいくつもあったほうがよい。
- ・万石橋を渡って山に逃げる方法を考えたらよい。
- ・渡波稲井線の他にも、車で避難するためのルートが必要。
- ・道路が凸凹になっており、大型車が通るたびに家が揺れるので整備してほしい。
- ・家が無くなって交差点がわかりづらく危ないので、表示をしてほしい。
- ・震災後の地盤の高さが知りたい。
- ・浜松公園の松の木を切ってしまうので、日陰になるものがほしい。
- ・12月の地震時の避難では、鹿松の山際の道路、市道流留真野沢線が渋滞した。これらの道路の幅員の確保等の整備をしてもらいたい。



意見交換会の様子



第2回意見交換会を開催しました【平成26年2月17日(月)会場：渡波公民館 住民出席者：23人】

話し合った主な意見

暮らしやすいまちとなるための課題が出てきました。

住む人が増えれば、お店の誘致などの活動を更に展開できる。

●暮らしやすさ●

新しく家を建てる敷地の嵩上げによる高低差対策(ルールづくりなど)を考える。

若い人が働いて子育てができるまちにする。

病院を誘致する。

津波避難ビルの指定を増やすことで、安心感が生まれる。

帰るための公営住宅のあり方(戸建て、大家族に対応する規模、抽選方法など)を考えてほしい。

狭い道路に面している狭小宅地では、共同建替によって家を建てるのが出来るのでは？

●コミュニティ●

人が戻るまで、また、新たに人を受け入れるために、今住んでいる人たちでコミュニティを築く。

浜松公園付近に、地域のコミュニティの拠点となる集会所があればいい。

コミュニティが安全・安心にも大切と考えられています。

日頃からの声掛けなどが、いざという時の助け合いにつながる。

地区で助け合って避難するシステムをつくるために、情報を開示してほしい。

まちのイメージを良くすることや、建物が増えるなどの変化がみられることで人は戻ってくるのではないか。

●安全・安心●

復興公営住宅をつくることで、「住んでもよい地区」をアピールできる。

堤防や避難タワーなど、一部でも目に見えるものが出来れば住民は戻ってくる。

堤防が出来ても人は戻ってこない。土地の嵩上げも必要だと思う。

住宅再建への工夫も話題になりました。



第2回意見交換会に参加した感想・意見等

- ・長浜・松原町について、行政が想定する安全と現地の実際との差がありすぎる。堤防と線引きの計画が定まった後での今更ながらの会議ではあるが、ここから始めるしかないのでしょうか。コミュニティ形成と言われても、人が居なければパワー不足と嘆きたくもなりますが。
- ・大宮地区に戻って来てくれるという条件は人それぞれに違う為、地区としてどうしたらいいの？という希望があるの？と聞かれてもなかなか難しい。
- ・集落構成年齢の変化に対応した意見が必要ではないかと思う。
- ・工事の進行がまだ見えてこない。
- ・安全な町に戻るため、皆様の意見をよく聞いてください。
- ・将来への希望を私たち市民に見せて欲しい。私たちは少しでも役立っていきたくないので、そのチャンスを与えてほしい。
- ・今までの不満を言えてよかった。もっと建設的な内容の提示をしてほしい。公営住宅が決まる前にもっとはっきりしてほしい。
- ・前回不参加だったので話が分からない。安全になってから戻るかどうかが考える。
- ・防潮堤や防災緑地が出来ないか、住宅の再建は難しい。また、まちづくりをどうするかは不安さから現時点では難しい。
- ・家族も居ないし、高齢者の独り暮らしなので現在は戻る気持ちはないし、土地をどうしたらいいのかが心配。
- ・松原・長浜地域のまちづくりの厳しさを改めて実感した。「この地域に公営住宅を」は検討するに値すると思う。少人数の現居住者を活かす方策も大事にする必要がある。

●参加してみて●

